

成果発表

取組概要

文部科学省では、「国際協カイニシアティブ」の実施を通じて、カリキュラム・教材・マニュアルなど大学の知を活用した国際協力に活用できる成果物を作成するとともに、実際に国際協力に従事する組織・人に活用されるよう、事業成果の広報・発表にも力を入れて取り組みました。

事業で作成した全ての成果物の電子データを筑波大学にある「『国際協カイニシアティブ』ライブラリ」に蓄積・公開したほか、国内最大級の国際協カイベント、「グローバル・フェスタ・JAPAN」への出展、文部科学省の来省者用待合い所「文部科学省情報ひろばラウンジ」での展示、国際協カイニシアティブの年毎の成果発表会「国際協カイニシアティブ国内報告会」の開催を通じて、国際協力に関心を持っておられる多くの方々に本事業の目的・概要・活動の様子を伝え事業への参加を促したほか、成果物がより多く活用されるよう働きかけを行いました。

取組事例

- ① 「グローバル・フェスタ・JAPAN」への出展
..... P52~53
- ② 文部科学省「情報ひろばラウンジ」での展示
..... P54
- ③ 「国内報告会」の開催
..... P55~57
- ④ パンフレット・報告書一覧
..... P58~60

開催概要

名 称	グローバルフェスタ JAPAN 2010
テ ー マ	MDGs、それは "私たちの約束"
開 催 日 時	平成22年10月2日（土）・3日（日）10:00～17:00
開 催 場 所	日比谷公園
入 場 料	無料
趣 旨・内 容	「10月6日は国際協力の日」を記念して開催される国内最大級の国際協力のイベントで、平成2年より開催されており、今年で20周年を迎えます。楽しくわかりやすい参加型イベントを通して、国際協力を身近に感じてもらうとともに、開発途上国の現状とODAを含む国際協力の必要性や国際協力にあたっての政府、国際機関、NGOの活動を広く理解していただきます。今年のテーマは「MDGs、それは "私たちの約束"」。「2015年までに世界の貧困を半減する」ことを目標とする「ミレニアム開発目標（MDGs）」の達成に向け、グローバルフェスタを通して、みんなで一体となって「約束」への第一歩を踏み出します。
主 催	グローバルフェスタ JAPAN2010 実行委員会
共 催	外務省 独立行政法人国際協力機構（JICA） 特定非営利活動法人 国際協力 NGO センター（JANIC）
後 援	・総務省 ・財務省 ・文部科学省 ・厚生労働省 ・農林水産省 ・経済産業省 ・国土交通省 ・環境省 ・東京都 ・(社)日本新聞協会 ・NHK ・(社)日本民間放送連盟 ・(社)青年海外協力協会 ・(社)日本経済団体連合会 ・千代田区
参 加 団 体	援助関連政府機関・公益法人、国際機関、大使館、青年海外協力隊関連団体、NGO 団体関連 約287 団体
事 務 局	グローバルフェスタ JAPAN 2010 実行委員会事務局 〔(株) JTB コミュニケーションズ内〕 TEL 03-5434-8319 FAX 03-5434-8694 E-mail g festa10@jtbcom.co.jp
結 果	来場者数 10万6千人（10／5 発表） 文部科学省テント来場者数：2日（土） 214 人 3日（日） 317 人 計 531 人

会場風景



「国際協力イニシアティブ」ブースの様子



青年海外協力隊
帰国現職教員による
体験報告



展示期間
平成22年10月19日(火)～10月29日(金)



1. 開催概要

日	時	平成23年3月2日(水) ◆ 報告会: 10:00～18:00(開場9:30)
場	所	文化庁(旧文部省庁舎:〒100-8959 千代田区霞が関三丁目2番2号) ◆ 報告会: 6階第二講堂
目	的	「国際協力イニシアティブ」事業実施機関による活動報告
主	催	文部科学省大臣官房国際課
運	営	事務局 社団法人科学技術国際交流センター(JISTEC)



2. 国内報告会プログラム

9:30 ～	開場 受付開始
10:00 ～ 10:05	開会の挨拶：文部科学省大臣官房国際課長

午前の部

10:05 ～ 10:30	名古屋大学：伊藤香純 「開発途上国における拠点大学を中心とした農産物加工産業振興モデルの構築とその普及：商品化と販売を通じた生産者の生計向上と農業大学における実践的な研究・教育体制の構築」
10:30 ～ 10:55	名古屋大学：浅沼修一 「農学知的支援ネットワークの組織力を活かした科学技術協力の推進」
10:55 ～ 11:20	名古屋大学：市橋克哉 「社会科学を学ぶ外国人学生のための体系的な専門基礎教材開発」
11:20 ～ 11:45	北海道大学：本堂武夫 「発展途上国の大学における ESD 推進のための ESD アクションモデルアーカイブづくり」
11:45 ～ 12:10	愛知県立大学：東 弘子 「日系社会青年ボランティア「現職教員特別参加制度」活動支援のための教育協力システムの形成」
12:10 ～ 12:30	質疑応答
12:30 ～ 13:30	昼休憩

午後の部

13:30 ～ 13:55	筑波大学：磯田正美 「国際協カイニシアティブ」教育協力拠点形成事業全体に係る成果品の収集と管理
13:55 ～ 14:20	宮城教育大学：斉藤千映美 「動物園を活用したマダガスカルの ESD パイロットマテリアルの構築」
14:20 ～ 14:45	同志社女子大学：大西秀之 「フィジー諸島共和国における自然・文化環境保全のための ESD カリキュラム・教材の開発」
14:45 ～ 15:10	鹿児島大学：小原幸三 「連帯による「持続可能なエネルギー教育」 ―地域と大学のローカルシンフォニーによるリサイクルからの展開―
15:10 ～ 15:35	神戸大学：小川啓一 「サブサハラアフリカの初等教育普及政策下における教育の質に関する比較分析」
15:35 ～ 15:50	小休憩
15:50 ～ 16:15	日本赤十字九州国際看護大学：喜多悦子 「ベトナムの拠点大学における「災害看護学」教育導入の支援」
16:15 ～ 16:40	名城大学：小川寿美子 「地域支援型保健人材教育機関の連携活性化による持続発展教育(ESD)実践の拡大と定着」
16:40 ～ 17:05	大妻女子大学：大澤清二 「学校保健分野における国際協力モデルの構築と自立支援」
17:05 ～ 17:45	質疑応答
17:45 ～ 18:00	コメンテーター 総評
18:00	閉会



4 パンフレット・報告書一覧

「国際協カイニシアティブ」では大学等に委託して実施した教材や活動モデルの作成等の事業に加えて、これらの事業を一括して広報するためのパンフレット等の作成や、文部科学省において国際協力の推進施策を検討する際に必要な情報を得ることを目的とした各種調査等も実施しました。

■平成22年度



① グローバル人材育成のための大学教育プログラム

以下の調査報告の概要をまとめた広報用パンフレット。

「若者の『内向き志向』」など若い世代における海外への関心の低下が指摘される中、大学教育・研究活動の中で、国際協力の体験と教育プログラムを融合する取り組みを推進し、意欲ある学生が自然に参加できるような高質な場を設定することにより、国際社会で活躍できる人材の土台作りと意識作りに取り組むことが望まれる。

そこで、大学教育の中に国連機関や国際援助機関等への海外ボランティアやインターンとしての派遣を融合するなど、グローバル化に対応する人材や国際協力分野で活躍できる人材の育成を図るための効果的かつ実施可能なプログラムについて、既存の大学の取り組みを調査分析し、その意義と課題を明らかにすることで政策的な提言を行うことを目的とした調査の報告。



② 開発途上国での教育経験を活かして活躍する日本の先生たち

以下の調査報告の概要をまとめた広報用パンフレット。

青年海外協力隊「現職教員特別参加制度」に参加した教員は、帰国後、開発途上国での経験を日本の教育現場や地域社会に還元・貢献する活動を行っている。地域によっては、帰国教員の組織化が試みられており、教育委員会などによる還元・貢献の推進事例も見られはじめている。他方、こうした教員の経験の還元・貢献活動を普及させるためには教育委員会などによる一層の組織的支援が必要とされている。そこで、こうした具体的取組事例を教員・所属校長、教育委員会支援組織から収集し、分析することで現状把握や、課題の整理を行った調査の報告。

■平成21年度



③ 国際協カイニシアティブ 教育協力拠点形成事業パンフレット

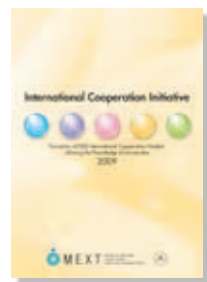
「国際協カイニシアティブ」広報用パンフレット。事業の全体概要と平成21年度に実施した代表的な12事例の概要を紹介。



④ 大学の知を活用したESD国際協力実践モデルの形成—2009—（日本語版）

事業内容と活動成果の普及を目的とした広報用パンフレット。

「国際協カイニシアティブ」では、DESD（国連「持続可能な発展のための教育の10年」）が中間年を迎え、ESDの理論面の整備に加えて実践面の一層の強化が求められている状況を受けて、我が国の大学などが有する知見を活用し、海外の大学などとも連携しつつ、開発途上国においてESDを普及させるための教材や活動モデル等の開発に取り組んだ。本パンフレットではESD関係の取組のみを抽出。



⑤ 大学の知を活用したESD国際協力実践モデルの形成—2009—（英語版）

事業内容と活動成果の普及を目的とした広報用パンフレット。

大学の知を活用したESD推進の取組は、2008年に開催された「TICADIV」（第四回アフリカ開発会議）のフォローアップ事業の一つと位置付けて、アフリカ（+アジア）を主対象地域として実施した。本パンフレットはTICADの対象であるアフリカの外交団等に向けて作成。



⑥ 青年海外協力隊「現職教員特別参加制度」による派遣教員の社会貢献と組織的支援・活用の可能性 報告書

青年海外協力隊「現職教員特別参加制度」に参加した教員は、帰国後、開発途上国での経験を日本の教育現場や地域社会に還元・貢献する活動を行っている。地域によっては、帰国教員の組織化が試みられており、教育委員会などによる還元・貢献の推進事例も見られはじめている。他方、こうした教員の経験の還元・貢献活動を普及させるためには教育委員会などによる一層の組織的支援が必要とされている。そこで、こうした具体的取組事例を教員・書底校長、教育委員会支援組織から収集し、分析することで現状把握や、課題の整理を行った調査の報告書。



⑦ グローバル人材育成のための大学教育プログラムに関する実証的研究 報告書

「若者の『内向き志向』」など若い世代における海外への関心の低下が指摘される中、大学教育・研究活動の中で、国際協力の体験と教育プログラムを融合する取り組みを推進し、意欲ある学生が自然に参加できるような高質な場を設定することにより、国際社会で活躍できる人材の土台作りと意識作りに取り組むことが望まれる。

そこで、大学教育の中に国連機関や国際援助機関等への海外ボランティアやインターンとしての派遣を融合するなど、グローバル化に対応する人材や国際協力分野で活躍できる人材の育成を図るための効果的かつ実施可能なプログラムについて、既存の大学の取り組みを調査分析し、その意義と課題を明らかにすることで政策的な提言を行うことを目的とした調査の報告書。

■平成20年度



⑧ アジアにおける地域連携教育フレームワークと大学間連携事例の検証

「アジア版エラスムス計画」に代表される国際教育交流の政策について検討する際の基礎情報の収集を目的として実施した調査の報告書。国際機関等が主導するアジアの地域連携フレームワークや国内外の高等教育機関が行っている大学間連携の具体事例の調査等を行った。



⑨ 国際協カイニシアティブ教育協力拠点形成事業パンフレット

「国際協カイニシアティブ」広報用パンフレット。事業の全体概要と平成20年度に実施した代表的な9事例を紹介。



⑩ 大学の知を活用したESD国際協力実践モデルの形成—2008—（日本語版）

事業概要や活動成果の普及を目的とした広報用パンフレット。

「国際協カイニシアティブ」では、DESD（国連「持続可能な発展のための教育の10年」）が中間年を迎え、ESDの理論面の整備に加えて実践面の一層の強化が求められている状況を受けて、我が国の大学などが有する知見を活用し、海外の大学などとも連携しつつ、開発途上国においてESDを普及させるための教材や活動モデル等の開発に取り組んだ。本パンフレットではESD関係の取組のみを抽出。



**11 大学の知を活用したESD国際協力実践モデルの形成
— 2008 —（英語版）**

事業内容と活動成果の普及を目的とした広報用パンフレット。

大学の知を活用したESD推進の取組は、2008年に開催された「TICADIV」（第四回アフリカ開発会議）のフォローアップ事業の一つと位置付けて、アフリカ（+アジア）を主対象地域として実施した。本パンフレットはTICADの対象であるアフリカの外交団等に向けて作成。

■ 平成 19 年度



**12 文部科学省「国際協カイニシアティブ」
平成 19 年度教育協力拠点形成事業**

「国際協カイニシアティブ」広報用パンフレット。事業の全体概要と平成19年度に実施した23事例の概要を紹介。



13 平成 19 年度「国際協カイニシアティブ」リーフレット

「国際協カイニシアティブ」で平成19年度に実施した活動を概観した広報用リーフレット。



**14 平成 19 年度文部科学省「国際協カイニシアティブ」
教育協力拠点形成事業**

— 青年海外協力隊現職教員の支援 — 成果物のご案内

平成19年度に作成した成果物の活用を促進するための広報用パンフレット。

「国際協カイニシアティブ」では、「現職教員特別参加制度」により青年海外協力隊に参加した教員等の活動支援のため、隊員が国内外での活動の際に活用出来る教材等を作成する活動に取り組んだ。本パンフレットでは青年海外協力隊関係の取組のみを抽出。

■ その他（参考）



**15 国際教育協力懇談会報告 2006
大学発 知のODA ～知的国際貢献に向けて～**

国際開発協力において教育関係者が果たす役割などを議題として開催された、文部科学大臣の私的懇談会「国際教育協力懇談会」の報告書。

開発途上国の有する支援ニーズへの対応や直面する課題の効果的解決に、我が国として大学の知的な援助リソース（研究成果や高度人材育成機能）を役立てて取り組んでいく、知的な国際貢献を推進していくことを提案した。

「国際協カイニシアティブ」は本報告の内容を具現化するものとして開始された。